

ここ数年で日本に新たに紹介されたスイスのハイエンド・オーディオブランドは少なくないが、ソウルリユーションは、サウンド、デザイン、操作フィードバックなど、すべての面において、おそらくそのどれよりも話題を呼ぶものと確信する。

ソウルリユーションは、電気工学部品や電気モーターを製造するスイスの老舗電機会社シユベモット社（1956年創業）が、2000年に設立したオーディオブランドだ。想像通り、ブランド名はソウルとソウルリユーションの造語である。

第一弾のモデルは、プリアンプ720と、パワーアンプ710のペア。双方とも何の変哲もないスクエアな箱に映るが、驚くべきことに、シャーシには表から見える範囲でヒス類がまったくない。これは、デザインセンスのよさと、精度の高い工作技術の融合によるもの。防振対策、電磁シールドなどが十分に練られていることはいまでもないが、何しろその重量は、720で30kg、710で実に80kgにもおよぶのだから、ヒスを露出させずに堅牢さを保つことがいかに困難かは、想像に難くない。そしてこのソウルリユーションの筐体デザインは、ドイツの2006年レッドドット・デザイン賞を受賞しているのである。

ソウルリユーションは多くの測定データを公表し

ているが、これはバックに電機部品メーカーが控えているという事実から納得がいくことだ。全高調波歪み率、周波数特性、チャンネルセパレーション、スルーレートや出力/負荷特性など、多岐に渡っている。これは製品に対する絶対的な自信の表われに他ならない。

プリアンプ720は、オーディオ回路/デジタルコントロール回路に個別の電源を配し、完全左右独立チャンネル基板によるデュアル・モノコンストラクションによる、圧倒的なチャンネルセパレーションと、40MHzまでリニアな増幅が可能な広帯域アンプに加え、超低出力インピーダンスによって長いケーブルの接続にも万全な対応が図られた。入力信号にDC分を検知すると、自動的にカップリングコンデンサーを挿入するなど、付帯機能の独創性も見逃せない。

ポリウム製の機構もたいへん凝っており、金属皮膜抵抗ネットワークの組合せをリレーで制御しているが（1dB毎/80ステップ）、ポリウム回路に音量設定用PGAアンプを並列に挿入し、ポリウム設定時のみこれを働かせてリレーの不快感動作音を排除している。

パワーアンプ710で刮目に値するのは、オリジナルのリニア補正アンプ回路である。入力バッファ





# Soulution

## 未踏

彗星のごとく突然現われ、  
瞬く間に評判となる事例は、  
どんな世界にもある。  
オーディオとして例外ではない。

私はスイスの新進ブランド「ソウリューション」にその予兆を感じた。  
セバレートアンプの音を聴き、そのコスメティックデザインを見て、  
これは十年に一度の製品かもしれないと思い、身震いを覚えたのだ。  
そのスピーカー支配力は、まさに未踏の領域にある。





KEITH JARRETT  
GARY PEACOCK  
JACK DEJOHNETTE  
MY FOOLISH HEART

LIVE AT MONTREUX  
ECM

「MY FOOLISH HEART」  
キース・ジャレットトリオ  
ECM 2021/22 (1737326)



paavo järvi  
beethoven symphony no. 2  
ベートーヴェン:交響曲 第3番  
「英雄」&第8番  
パーヴォ・ヤルヴィ指揮/  
ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団  
RCA 88697 00655 2

ーアンプと電圧増幅段の間に挿入されたこの回路は、大きなオープンループゲインに多量の負帰還を掛けた、汎用的なNFB回路とはまったく異なり、入力信号と増幅された信号とを比較してオリジナル信号に近似するように働くという。この動作をつかさどっているのが、最短のシグナルパスで構成され、80MHzにおよぶ広帯域特性を実現したモジュールアンプだ。合成樹脂ケースに封入され、一定温度で動作する環境が構築されたこのモジュールアンプによって710は完成することになる。

電源部も非常に強力だ。1000VVAのトロイダルトランスを2基と、総容量25万マイクロファラドに達するフィルターコンデンサーを搭載。チャンネル当たり14個のバイポーラトランジスタに最大60Aの大電流を供給する能力が備わっているという。また、パワートランジスタは6mm厚の銅板を介してシャーシに熱結合されている。汎用的なヒートシンクを用いずに安定した動作を実現している点が興味深い。

いずれのモデルも、まるでカラーコーディネーター

ーが監修したのではないかと思うほど内蔵パーツのカラーリングが美しく、整然と配列されたさまは見応えがある。無駄のない極めて合理的なコンストラクションながら、こうした余力的な要素が見え隠れするところが頼もしい。

### ソウリューションの凄まじい駆動力 あらゆる音楽が生氣に満ちる

「ネイチャー・オブ・サウンド」を標榜するソウリューションの音は、強力なスピーカードライヴ力と静謐なS/N感に裏打ちされた、実に説得力に溢れたものであった。あらゆる音楽が生氣に満ち、躍動的に再現される。それはマシンの挙動を完全に掌握し、意のままに操る優秀なレーシングドライバの振る舞いを彷彿とさせる。

キース・ジャレット率いるピアノトリオの最新作、2枚組ライブ盤「マイ・フーリッシュ・ハート」では、三人の演奏家が楽器を通して、あたかも会話をしているようなインティメイトな雰囲気だ。聴衆はそのトークセッションを楽しんでいるような和み感に溢れている。



## Burmester CD Player 061

- アナログ出力: バランス1系統 (XLR)、アンバランス2系統 (RCA)
- デジタル入力: 同軸2系統 (RCA)、光1系統 (TOS)
- デジタル出力: 同軸1系統 (RCA)、光1系統 (TOS)
- 寸法/重量: W482×H112×D340mm/10kg

デイスクリーの「マイ・フリーシチュアート」から「オレオ」への展開は、繊細なバラードから、スウィング感に溢れたアップテンポへとダイナミックに流れていく。繊細なメロディは染み入るようだし、躍動的なリズムは空気を突き動かして肌到達する。接続したスピーカー、ソナス・ファベルのストラディヴァリ・オマージュに眠っていたパワーが、ソウリユーションのペアによって毅然と表われた。ちなみにこのアルバム収録は、2001年7月、スイスのモントルー・ジャズ・フェスティバルにて。凛としたこの空気感は、スイス生まれのソウリユーションだからこそ引き出せたと思うのは、考えすぎだろうか。

バヴオ・ヤルヴィ指揮、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団による「ベートーヴェン／交響曲第3番『英雄』」では、爽快なスピード感とたたみかける重量感が素晴らしい。ハイスピード／ハイスルード、低音みというソウリユーションの持味が如何なく発揮される。深刺としたリズムに、小編成の楽団ならではの小気味よいスピード感が乗り、カラフルかつ力強い躍動感がとても印象的だ。瑞々しい弦の響き、輝かしい管のアンサンブルは、試聴に用いたブルメスターの最新トップローディング方式CDプレーヤー、061の192kHzサンプリングの恩恵もあるうが、これほど明晰で緻密な〈英雄〉は聴いたことがない。雄大で勇ましく、途方もないスケール感が淀みなく展開する。とりわけ第2楽章のコントラバスの堂々とした美体感にほろびた。

私はソナス・ファベルのストラディヴァリ・オマージュがここまで全帯域に渡って統制されて鳴った音をかつて経験したことがない。はったりのないナ

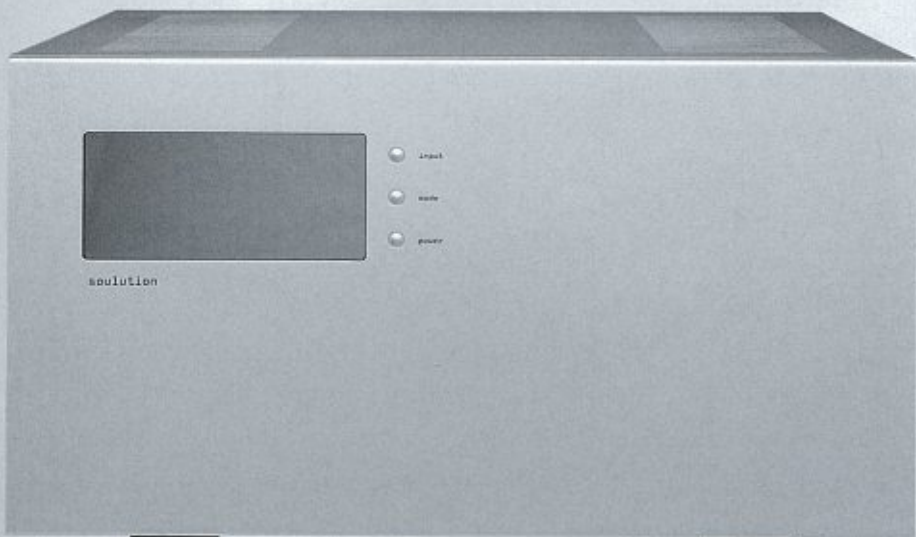
チュル的な描写カビと、その後ろ盾としてある圧倒的な支配力。こうしたハフォーマンスは過去にあったようで、こうしてソウリユーションの音を前にすると、実はみな中途半端であったように思えてならないのだ。

凄まじい駆動力と、底の見えないノイズフロアの低さ。それをデジタル方式ではなく、アナログアンプで実現しているところに、ソウリユーションの底知れぬ技術力を痛感するのである。



## Soulution Preamplifier 720

- 入力インピーダンス: 2kΩ (バランス)、47kΩ (アンバランス)、1kΩ/100Ω (フォノMC)
- アナログ入力: バランス2系統、アンバランス3系統 ● アナログ出力: バランス1系統、アンバランス1系統
- 寸法/重量: W480×H167×D450mm/30kg



## Soulution Power Amplifier 710

- 出力: 120W + 120W (8Ω)、240W + 240W (4Ω)、480W + 480W (2Ω)
- インピーダンス: 4.7kΩ (バランス)、10kΩ (アンバランス)
- 寸法/重量: W480×H280×D535mm/80kg ● 備考: バランス入力HOT=2番ピン